

盲・聾・養護学校から特別支援学校へ

<現 状>

障害の程度が比較的重い児童生徒に対して、障害の種類ごとに別々の学校

全就学児童生徒のうち0.46%が在籍

盲学校

(0.01%)

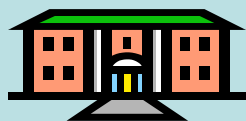
聾学校

(0.03%)

養護学校

(0.42%)

- ・知的障害
- ・肢体不自由
- ・病弱



対象児童生徒の増加

障害の重度・重複化

基本的な考え方の転換

<今後の基本的な考え方>

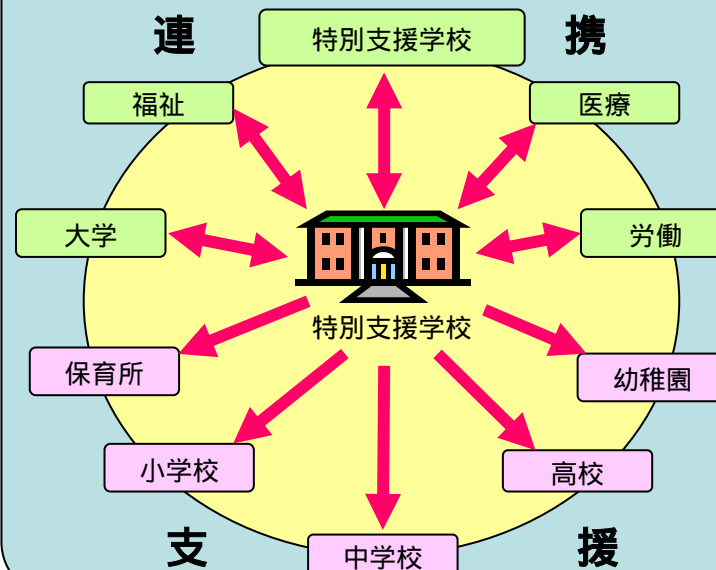
小・中学校等の教員や保護者への相談・支援等地域の特別支援教育のセンター的役割を担う学校

現行5障害種は維持しつつ、障害の枠にとられない学校

特別支援学校(仮称)

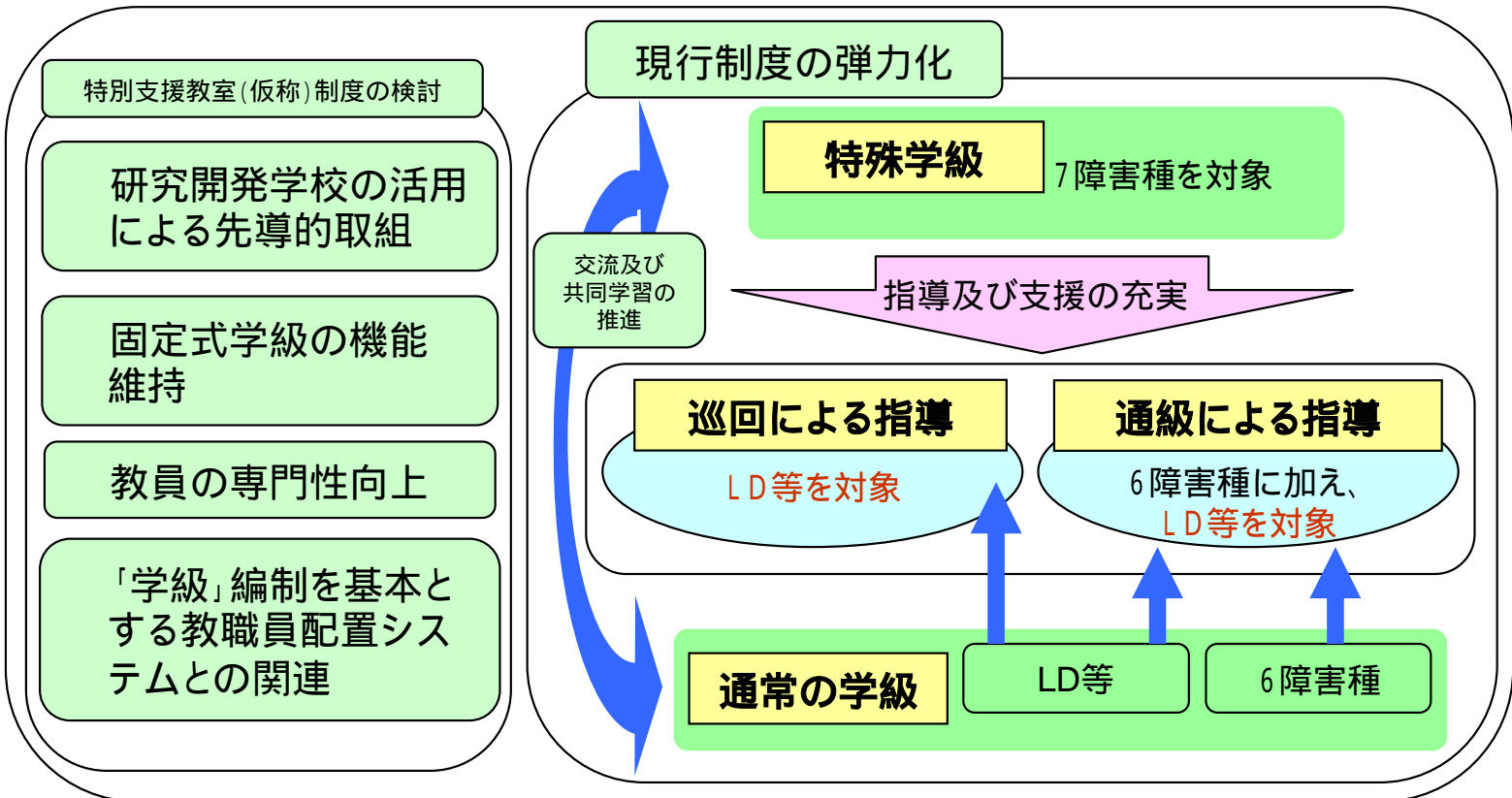
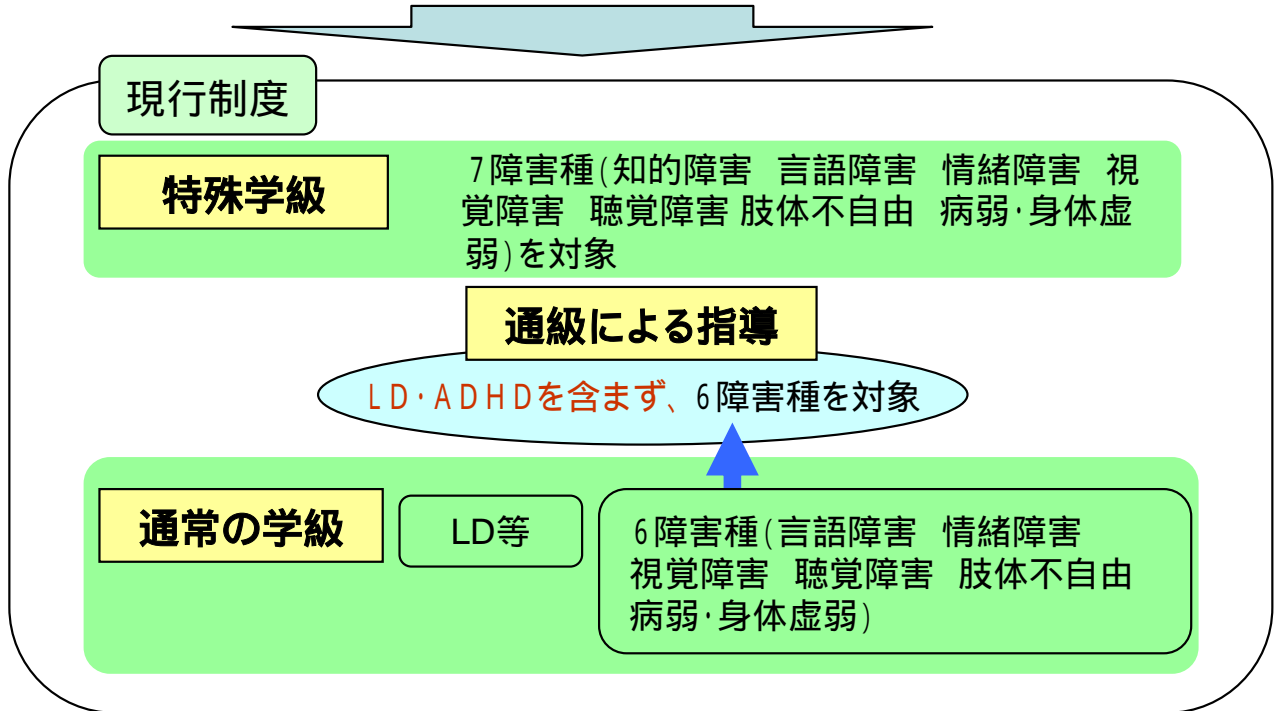
(例)

- ・知的障害 + 肢体不自由部門
- ・聴覚障害部門のみ



小・中学校における特別支援教育の推進

特殊学級等やLD・ADHD・高機能自閉症等(以下、「LD等」とする。)の児童生徒が通常の学級に在籍したうえで、その必要に応じ、指導等を受ける特別支援教室(仮称)の構想が目指しているシステムの実現を目指す。



特別支援教室(仮称)の構想の実現へ